

「中国报」（中国リポート 第七号）

おすすめ書籍（番外編）

～新型コロナ禍の出張不可能状態のため番外編：おすすめの中国関連書籍情報～

◆日中関係史 1500年の交流から読むアジアの未来

エズラ・F・ヴォーゲル著、益尾佐知子訳、日本経済新聞社刊

まえがきに「もし、GDP（国内総生産）世界一のアメリカと第二位の中国との関係が世界で最も重要であるとすれば、世界で二番目に重要なのはおそらく、中国とGDP第三位の日本の関係であろう」と書かれているように、筆者が重要とする日中関係の歴史に関して書かれた書である。本書では両国関係を文字としての記録に残る1500年間に渡る関係史を紹介している。

日中関係の歴史書を読む場合、「著書」がどういう「立場」の人かということが、その内容を大きく左右しているのも事実である。時には著者の自虐的歴史観に基づいて書かれた書物であったり、あるいは中国の国名を意図的に「支那」と表現するような嫌中派の右よりの著者の書籍だったり、さらには国籍を変えることがあまりない「中国人」が、その国籍を捨てたゆえに書いた著書であったりという具合に、ある意味「偏り」があるのも事実である。

そういう点で、ヴォーゲル氏は、日中両国との関係が深く、日本語も中国語も解することができる。その氏の著書なので、ニュートラルに書かれているのではないかと思う。1979年の著書である『ジャパン・アズ・ナンバーワン』（原題：Japan as Number One: Lessons for America）で日本が輝いていた時代を著したのは、（日本では）あまりにも有名である。また中国でも『現代中国の父 鄧小平』（中国での書籍名は「鄧小平時代」）は、ベストセラーとなっている。

この書では江戸時代までに日中間が衝突した、3つの出来事についても詳述している。一度目は660年で唐と新羅の軍隊が百済に攻め込んできた際に、日本に援軍を求め、日本がそれに応じ援軍を送った際、そして二度目は1274年および1281年の元軍の九州侵攻、三度目が、1592～1597年の秀吉の朝鮮侵攻の3回である。

中国人にとっての日本人のイメージは、「倭寇」が日本人だけで構成されていなかったにもかかわらず、倭寇のイメージが刷り込まれているらしい。既に倭寇（海賊行為）が減少したにもかかわらず、「水滸後伝」（明末期から清代）などの人気小説や文学作品に無慈悲な海賊としての倭寇が登場し、そのイメージが定着したことに有るようだ。豊臣秀吉が朝鮮に進行した直後に発表された小説でも、秀吉は邪悪な蛟龍の生まれ変わりとして描かれ、最後に主人公に退治されるという。明の正史（明史）の一部である「日本伝」はさほど空想的ではないが、やはり血に飢えた日本人について記述されているとのことで、本書によると恐ろしい日本人のイメージはこうして後世の中国に伝えられたという……。

なお、『[日中関係史 1500年の交流から読むアジアの未来](#)』の中国版は〈中国和日本 1500年の交流史〉という書籍名だが、百度で検索してもヒットしなかった。Google で検索すると《中国和日本:一千五百年的交流史》, [美]傅高义著, 毛升译, 香港中文大学出版社编辑部译校, 香港中文大学出版社, 2019年10月即出 https://www.sohu.com/a/342746913_260616 がヒットする。おそらく、1989年6月の天安門事件や尖閣諸島の帰属問題が「史実に基づいて記載」されているため、中国本土では出版が認められていないのではないだろうか。そのうち香港中文大学出版社の書籍も店頭から消えるかもしれない。

◆共通の訳者である益尾佐知子氏

ヴォーゲル氏の著作『日中関係史 1500年の交流から読むアジアの未来』と『現代中国の父 鄧小平』にはもう一つ共通点がある。訳者が[益尾佐知子氏](#)という点だ。益尾氏は『中国の行動原理 国内潮流が決める国際関係』の著者でもあり、中国の対外政策にも詳しい。

著書の「行動原理」によると、中国人を規定するのは2000年の歴史を持つ外婚制共同体家族制であるという。共同体の正式な成員である男子同士は、基本的に父と息子の上下の権威関係の束で構成されており、平等を建前とする兄弟間の横の結びつきは希薄、あるいは緊張含みですらあり、これをベースに考えると中国の社会組織やその動きが理解しやすくなるとのことだ。

反腐敗の名目で政敵を完全に抹殺し、人々に畏怖されることで国内凝集力を高め、国家を統治していこうとする習近平の政治手法は、完全に中国の伝統に即しているという。中国共産党を中心とした対外行動のルールを理解する一助となる書だと思う。

<参考>傅高义：中日做“好邻居”的关键在于处理好历史情绪

<http://news.ifeng.com/c/81nNRkwqkCM>

(2020/12 森山博之)

本レポートに関する問い合わせ先：<https://arc.asahi-kasei.co.jp/contact/>